

# ブログが隠れた 真実

H02 江上幸彦



## 君の目標

### 稲岸の死の真相を知る

君は今、大学の電気電子工学科で電子工学について学んでいる大学生だ。そして君は稲岸を殺した犯人ではない。稲岸は、中学時代の君を正しい方向に導いてくれた恩人なのだ。彼を殺すなどあり得ない。

## 親戚の家

本当は自宅から参加する予定だったのだが、急に近所に暮らしている叔父に呼ばれてしまい、仕方なく叔父の家から参加している。叔父の家の近くには久代の家があったはずだが、会いに行くほど仲良くはない。

## 君の中学時代

中学時代、君は女子更衣室に隠しカメラをしかけて盗撮をしようとしたことがある。

同級生の体にはまるで興味は無かった。ただ、趣味だった電子工作の腕を活かして、自分がどこまでのことが出来るか試したかった。皆の秘密をその気になれば知ることが出来る。その事実が、自分の自尊心を満たしてくれると考えた。

放課後に人気の少ない時を見計らって、女子更衣室に侵入し、更衣室に置かれていた植物にカメラを仕掛けた。慎重に更衣室を出る。後はプールの授業の日が来るのを待つだけ。

しかしプールの授業がやってくる前に、稲岸に二人きりで話したいことがあるからと呼び出され、こう告げた。

「お前.....この間女子更衣室に隠しカメラを仕掛けただろ？」

そうって、稲岸は君が更衣室に置いてきたはずの小型カメラを取り出した。そのカメラを見て心臓が飛び上がるようだった。更衣室に入る瞬間は誰にも見られていないつもりだったが、偶然にも稲岸に見られていたようだ。言い訳しようとするが、言葉が出てこない。

一体稲岸はどうするつもりだろう。君が目を伏せて彼の言葉を待っていると、またしても驚きの一言が聞こえた。

「江上、すごえじゃん！お前もしかしてこういう機械いじりとか得意なの？」

「.....えっ？ま、まあ.....」

「実はお願いがあってさあ、俺のためにキーボードを作ってくんない？最近パソコンの勉強してるんだけどさ、そもそもキーの順番すら覚えられなくて困ってるんだよね」

まさか、キーボードを作ってほしいなどと言われるとは思わなかった。カメラを仕掛けたことを出汁に強請られるとかそういう悪い想像ばかりしていたのに。

「そのカメラの事、先生に言うの？」

「え？いやだよ、先生がキレて面倒くさいことになるだけじゃん。清掃員の人がたまに植物の土を取り替えるから、あの場所に置いておくのは良くないなって思っただけ」

その言葉を聞いてほっと胸を撫でおろす。とりあえず、カメラをどうこうするつもりは稲岸にはないようだ。

「キーボードが欲しいんだっけ？それくらいなら簡単だからいいよ、作ってあげる」

「ほんとか！？約束だぞ！」

こうして君は、稲岸のキーボードを作成してあげることになり、それ以来学校でも何度か話すようになった。

どうしてパソコンについて勉強しているのかと聞いたら、自分のブログを作ってネットに公開したいんだと答えた。今でこそSNSや動画サイトに主流を譲ったものの、当時の自己表現の場はブログや個人サイトだっ

た。インターネットでそういうサイトを見ているうち、自分でもやってみたくなったのだそうだ。

「でも、ブログを1から作るのって結構大変だと思うけど」

「確かに簡単じゃあねえな。最近は久代にもいろいろ助言してもらってる。あいつは結構ネットに詳しいんだよ」

「久代君と仲いいの？」

「まあ、あいつとは同じ塾に通ってるからな。そうだ！江上も俺が通ってる塾に來いよ。塾って言ってもほとんど勉強してなくて面白いところなんだぜ」

こうして君は松原先生の塾に誘われた。稲岸に興味を持っていた君は、その誘いを受けることにした。両親に相談したら3年生だからとあっさり快諾された。

塾に行くようになってから稲岸とより親しくするようになり、キーボード以外にも様々なものを作ってほしいと頼まれた。稲岸の要望に応えようとするうちに、他人の秘密を覗きたいという歪んだ衝動が徐々に落ち着いていくのが分かった。稲岸が認めてくれたおかげで、自分の能力をそんな形で示す必要が無くなったのだ。

中学を卒業して稲岸たちとは別れてしまったが、良い形で自分の技術を使いたいと思うようになった。あの時、もし稲岸と出会わなかったら一体自分はどうなっていただろう。彼には伝わっていないかもしれないけど、君はとても稲岸に感謝しているのだ。

だから稲岸を殺した人間がこの中にいるなんて、本当に信じられない。ブログに何が書かれているのか、この目で確かめなくてはならないだろう。

## 不満

稲岸には感謝しているが、一つ不満があった。中学を卒業してから彼から連絡を取ってきてくれないことだ。昔はあんなに面白いと言ってくれたのに……。

仕方ないから自分から連絡しないといけないと思ったが、そう思っているうちに大学生になってしまった。もう稲岸君と話す機会はないのだろうか……。そう思っていた8/5、偶然稲岸を街で見かけた。

話しかけるチャンスだと思って後をつけ回していたが、結局勇気が出ずただつけ回しただけになってしまった。

## 中学時代の思い出

### 松原先生

便宜上、松原のことは先生と呼んでいたが、彼は塾生に何かを教えようとすることは殆ど無かった。

彼がやることと言えば、「川で一番大きい生き物を捕まえたやつが勝ち」とか、「一番面白い本・漫画をプレゼンしたことが勝ち」とかと言った、競争をさせることだった。

自由に何かをさせているように見える場面でも結局は何か教師の求めるような答えに縛られている学校と違って、松原先生は何を提示しても決して怒ることは無かった。面白い本のプレゼンでは、「宝くじの当て方」のような変な本をあえて持っていったりした。国語の授業でも似たようなことをやったので、同じ本を紹介したが、その時は微妙な空気になった。しかし、松原先生の方は特に何か言うことはなかった。

それだからか、先生の塾でやることはいつも新鮮で面白かったことを覚えている。成績は決して上がらなかったが、どれもいい思い出だ。

### 稲岸

人と話すまいとしていた君を強引に輪に引き入れた男だ。



君は彼に中学時代、色々な物を作ってあげた。一定時間ボタンを押さないと針で刺される居眠り防止装置など。はっきり言ってどれも下らない代物だが、稲岸が喜んでくれるのが嬉しかった。

稲岸も自分で何か作ってみたいと言ったので、電子工作を教えたことがある。ただ苦戦していたようでよく君にアドバイスを求めてきた。君は**作りたい箇所をまず最初に作れ**、そうしたらモチベーションが高まるし他の部分もどうすればいいか見えてくるとアドバイスした。

稲岸は結局電子工作はやめたが、君のこのアドバイスは他のことで役立っていると言ってくれた。

## 久代

クラスでも相当頭のいい生徒だったがなぜこんな塾に通っているのか謎だった。その上、塾での交流を楽しんでいるわけでもなさそうで、いつも冷めていた。

そんな彼がアリバイ表を作ってくるほどこの事件に興味を持っているとは知らなかった。確かに16と22の18時頃は両親が外出しており家に一人だったため、アリバイはないと言える。それ以外の日は両親と共に家にいたので、少なくとも君のアリバイは正しい。

## 竹口

野球部の男子で稲岸と一番仲が良かったように見えた。勉強は苦手だが運動が得意で社交的な君とは対照的な人間だ。

塾に入る前は殆ど彼とは接点がなかった気がするが、塾に入ってから稲岸と共に多少喋るようになったが仲良くはなかった。

## 小山

人がいるところにはいつもいるような感じの男だった。

人にちょっかいを出すのが好きで、中学時代は随分過激なことをされた気がする。昔、松原先生がペットボトルロケットを飛ばそうと言って皆を外に連れ出した際、君に向けてペットボトルロケットを飛ばしてきた

ことがあった。幸いロケットは外れたが、言うまでもなく危険な行為なので本来なら松原先生が止めるべきだ。しかしなぜか先生は「元気で良いね」と言うだけだった。

### タイムカプセルの箱

君が稲岸に頼まれた最後の電子工作。バッジをかざしたら開くような仕組みにして、そのバッジを皆に配って欲しいと言われた。バッジを持っておくことで皆との思い出を忘れないようにするためらしい。

また箱を防湿性にできないかとも言われた。材質には詳しくないが、できる限り稲岸の要望に応えられるものにしたいつもりだ。

### 授業のこと

授業はそれなりに真面目に聞いていた。

理科が好きで、よく理科の担当の井手口（いでぐち）先生と電子工作の話をしていた。

また大学に入ってから抽象的になりすぎてあまり好きではなくなったが、中学の頃は数学も好きだった。数学は週に4回あり、すべて2,3,4限に1コマ以上存在していたはずだ。

また、1限が国語で2限が数学という日が2日連続で続くことがある時間割になっていた。何曜日のことだったか忘れたが。

一番嫌いな授業は体育で、週に2回あった。

体育の前の時間が数学の授業の時があったので数学が終わると憂鬱になることがあった。

### 首藤先生

首藤一（しゅとう はじめ）先生。担当教科は数学。君たちの在籍していた3年3組の担任だった先生だ。怒鳴りつけてルールを遵守させる頑固な中年の先生で、生徒からの人気は0に等しかった。

### 席について

何故か1年中席は固定で、君は稲岸と同じ5班だった。

目が悪いので、先生に頼んで一番前にしてもらったことはよく覚えている。

### 塩酸盗難事件

3年の時、理科室の鍵が何者かによって盗難される事件が起きた。そして理科室を詳しく調べてみると、なんと理科室から塩酸が持ち出されていることが発覚したのだ。当然学校は大騒ぎになり、まず理科室の鍵の捜索が行われた。

鍵はある生徒が掃除中に発見し、その教室の生徒は相当疑われたようだ。警察の捜査も行われ、最終的に塩酸を盗難した生徒は捕まった。結局理科室のカギは、盗難した生徒が捜査をかく乱するためにわざと置いたものだったらしい。

理科室は何かと悪い事件が起きる場所で、実は3年3組の生徒もトラブルを引き起こしたことがある。男子生徒が理科室でふざけていた時、誤って置いてあったフラスコを大量に割ってしまったのだ。井手口先生がそれを見て真っ青になり、全部でウン万円くらいするぞと生徒を怒鳴りつけたことを覚えている。

### 女子

君は中学時代、女子とはほとんど無縁の学生生活を送っていた（高校も大学も対して変わらないが）

君の隣には**辺見紀子（へんみのりこ）**という女子が座っていたが、君が隣の席であることを露骨に嫌がっていた。ただ、そんな君にも少しだけ話しかけてくる女子が二人いた。

一人は外口という女の子だ。彼女はクラスで一番成績の良い優等生であり、また性格も優等生的で誰とでも平等に接するべきという考えを持っているようだった。君はかなり数学が出来たので、テストの点数で君を勝手にライバル視していたらしく、よく江上君は何点だったのとテスト



が終わるたびに話しかけられた。君はその度、とても緊張してしまいごによごによと点数を呟くだけで会話が終わってしまうのだった。

もう一人の名前は忘れてしまった。確か、花の名前の女の子だ（その花の花言葉は純愛だったが、彼女は色んな男と同時に付き合っているという噂が流れていた）。あと、苗字に木の名前が入っていた気がする。彼女は同じ班にいる稲岸などに良く話しかけに来ていたが、そのついでに近くにいる君にも話しかけていた。稲岸の周りにはよく人が集まり、君はいつも机に突っ伏したりして誰とも話したくないアピールをしていたが、彼女は平気で君の肩を揺すり、君を勝手に会話の輪に入れてこようとするのだった。当時は彼女の目的が分からず怖かったことをよく覚えている。

### 修学旅行

稲岸とは1年通してずっと同じ席だったので、修学旅行の班も稲岸と行動することになった。稲岸は平気でルールを破り、ゲーム機を平然と持ち込んでいたりしたので本当にひやひやさせられた。その中でも一番緊張したのが、稲岸が男子部屋を勝手に抜け出そうとした時だ。

君は稲岸に先生の見回りがあるけどどうするのと尋ねると、稲岸は「江上が声真似して誤魔化しといて」と言い残し、そのまま窓の外から別の部屋に行ってしまった。

仕方なく、君は点呼の時、稲岸の名前に声を変えて返事をし、先生をやり過ごした。

結果的にそれで上手くいったから良かったが、先生が部屋の中を確認していたら一体どうするつもりだったのかと、心の中でだけ毒づいた。もちろん本人には言わなかったが。

### 大石あかり（おいしい）

竹口と同じ班だった女子。テニス部に所属しており、活発で明るい女子だった。今年の8/20に、君たち3年3組のクラスLINEに同窓会をやりませんかという提案をしていた。

```
class="container">  
<h1>One more for good measure.</h1>  
<p>Cras justo odio, dapibus ac facilisis in, egestas eget.  
<a class="btn btn-lg btn-primary" href="#" role="button">
```

この先のページはブ  
グ上で (B) を見つけた  
場合に読み進めてくだ  
さい。

ent Section-->

```
tainer">
```

ow">

```
ow">  
s="col-md-4"></div>  
md-4"> <h2>
```

```
s="col-md-4"> <h2>
s="col-md-4"></div>
```

```
s="col-md-4"></div>
```

A small...

## 思い出したこと

ブログの文章を思い出して、修学旅行の班で回る場所を決める会議での稲岸との会話を思い出した。

「江上はどこに行きたい？」

「うーん、僕はどこでも良い。あえて言うなら、何も無いところに行きたい。地図でも名前を与えられないようなところに。そういう場所に光を当ててあげたい」

「何を言ってるんだか……何も無いところに集まっても寂しいだけだ  
る。やっぱ皆が知ってる場所が良いよな」